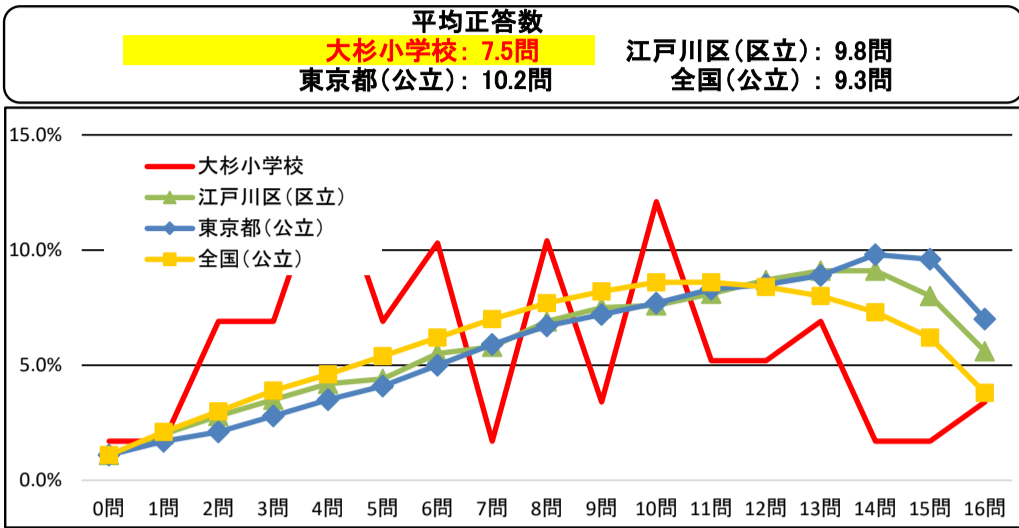


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】江戸川区立大杉小学校

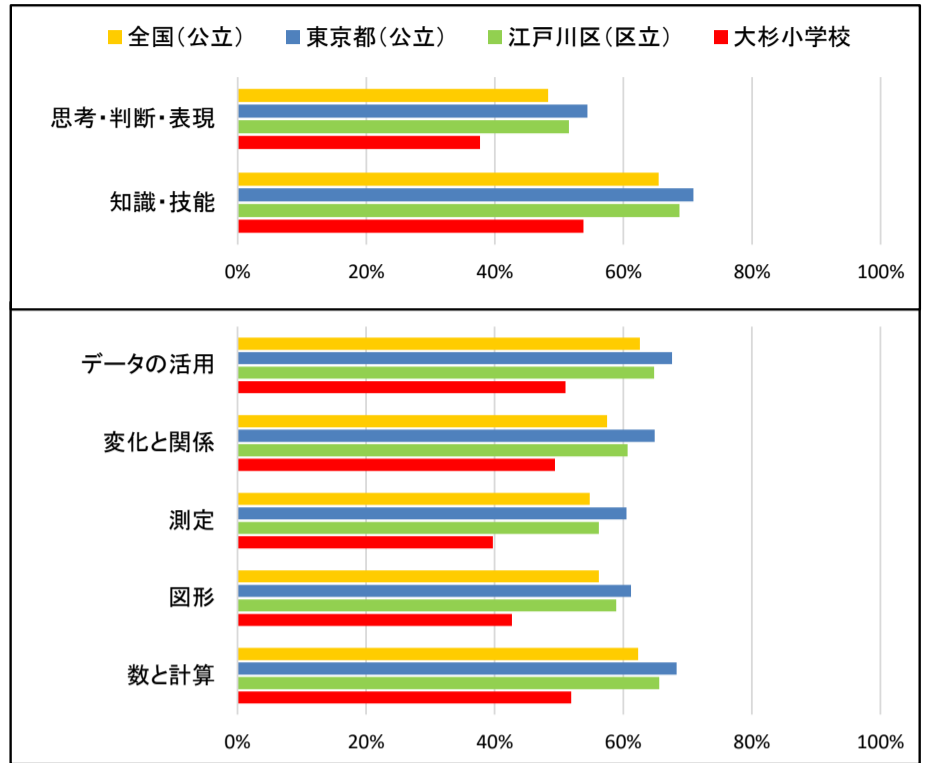
正答数分布



【平均正答率の差】

大杉小学校	47%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	-17.0

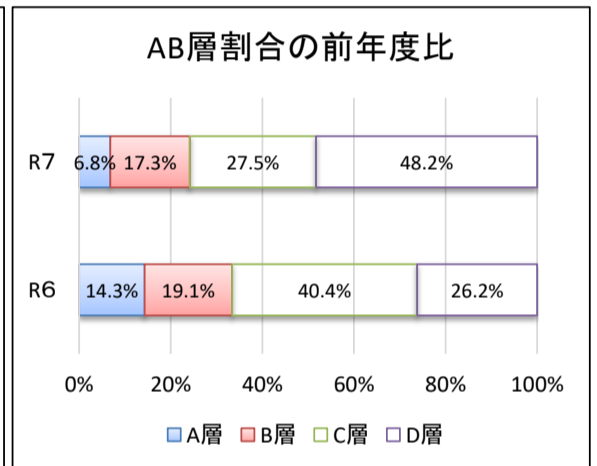
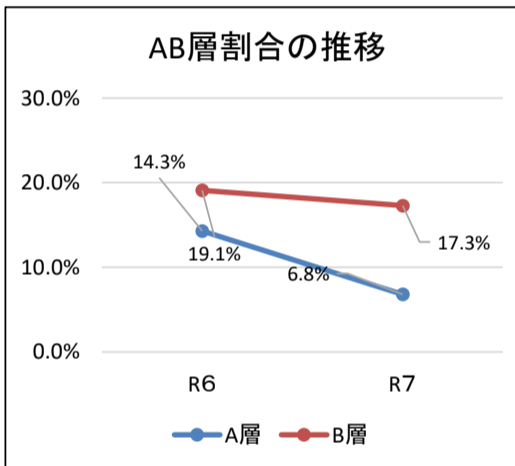
「領域別」の結果



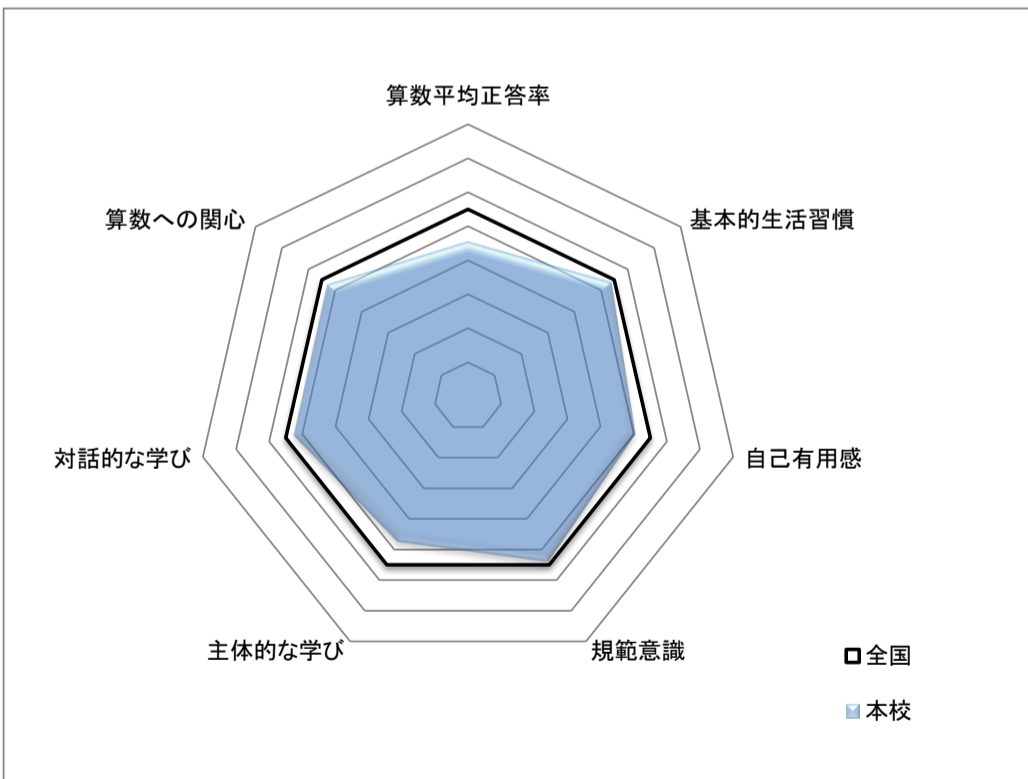
四分位における割合(都全体の四分位による)

算数	上位 ← 下位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 7~10問	D層 0~6問
大杉小学校	6.8%	17.3%	27.5%	48.2%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

- ・「基本的な生活習慣」と「規範意識」は全国平均並みである。
- ・「自己有用感」「算数への関心」「対話的な学び」は全国平均よりやや下回っている。
- ・「主体的な学び」は全国平均より大幅に下回っている。
- 対応策→授業の最初に「今日何をどう学ぶか」児童に見通しをもたせる。
- 対応策→児童自身に学び方を選ばせたり、話し合いの場を設けたりすることで、主体性を高める。

《家庭・地域への働きかけ》

- ・保護者会や学校だより等でこの結果を伝え、学校と家庭及び地域が協力して学力向上を図れるようにしていく。
- ・江戸川っ子Studyweek!や学習カルテ等でICTを活用する。ミライシードを家庭で取り組むようにする。
- ・四則演算などの基礎学力に関わる宿題の徹底への協力を推し進める。

《現状把握》

<成果>

- ・「知識・技能」「数と計算」の領域が50%以上の正答率であることから、算数の基礎学力は高まってきている。

<課題>

- ・B層の割合は前年度より1.8%微減したのに比べ、A層の割合は7.5%減少した。
- ・「測定」と「図形」の正答率が40%程度で著しく低い。
- ・「思考・判断・表現」の正答率が40%に達していないことから、自分の考えを表現することを苦手とする児童が多いと考えられる。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

- ・「めあて」を明確にし、1単位時間の中で「自力解決」「学び合い」「適用問題」まで確実に取り組む授業づくりをする。
- ・児童の実態に応じて学びの選択肢を与えることで、主体性を高める。
- ・リフレクションの質を上げる。
- ・自分の考えを説明する体験を積ませる。

・基礎学力の保障

- ・毎週金曜日の放課後に全教職員で指導にあたる「ぐんぐんタイム」や、放課後補習教室「EDOSク」の実施。
- ・2~6年生対象の「九九検定」と1年生対象の「足し算引き算検定」の実施。これによって、基礎学力の定着を図る。
- ・年4回、東京ベーシックドリルテストを実施。その結果から正答率の低い領域を、毎週水曜日の朝学習で取り組む。

・学習習慣の確立

- ・授業の中で、毎日必ずやる短時間ルーティーンを設定する。(児童の実態に応じて「3分計算タイム」や「今日の1問」「昨日の復習問題」などを設定。)
- ・解き方を言語化する習慣をつくる。
- ・学習環境やノートの型を統一する。
- ・家庭学習と授業の接点を明確にする。

・AB層の育成

- ・45分間の授業を基礎→標準→発展の3層構造で展開する。
- ・課題を「標準」「発展」の2段階で用意し、自身で難易度を選択できるようにする。
- ・A層には説明・表現活動が中心の授業を行い、B層には考え方の型の定着を図る指導を徹底する。
- ・ミライシード「ドリルパーク」で、個々人に適した問題を設定することで、個別最適化を図る。